

令和2年度 厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書（自治体肝炎ウイルス検査陽性者対策）

甲府市における肝疾患対策と山梨県での治療終了者サポート事業

研究分担者：井上 泰輔	山梨大学医学部第一内科・講師・肝疾患センター長
研究協力者：中山 康弘	山梨大学医学部附属病院肝疾患センター・特任講師
研究協力者：有菌 晶子	山梨大学医学部附属病院肝疾患センター・看護師
研究協力者：金高 昌代	山梨県福祉保健部健康増進課 感染症担当・課長補佐
研究協力者：浅山 光一	甲府市役所福祉保健部生活衛生薬務課・課長

研究要旨：山梨県甲府市は令和元年4月に中核市へと移行し、保健所を新設した。肝疾患対策として県内全市町村で行っている健康増進事業に加えて、人間ドックを受診する希望者に市の独自事業での肝炎ウイルス検査と腹部エコーでの肝臓検診を施行している。令和元年度のウイルス検査陽性者数/検査数はHBVで健康増進事業が34/1120(3.04%)に対して独自事業では75/5932(1.26%)、HCVでは健康増進事業が4/954(0.42%)、独自事業が4/5923(0.07%)であり、独自事業受検者が5～6倍と多数であった。令和元年度の肝がん検診は13952名が受検し、要精検率は3.9%、精検受診率は2.7%、肝がん確定が1名、疑いが13名、他部位がんが13名に発見された。

山梨県と山梨大学肝疾患センターとで平成29年10月からC型肝炎治療終了者サポート事業を行っている。同事業ではファイブロスキャンを用いた肝硬度と脂肪化の評価を無料で施行し、肝疾患コーディネーターが検査結果と継続通院の必要性を説明することにより通院へのモチベーションに繋げている。またすでに脱落していたが本事業の案内により再通院に繋がった症例も確認されている。

A. 研究目的

令和元年4月から中核市へと移行した山梨県甲府市におけるウイルス肝炎・肝がんについての取組みを検討した。

山梨県と山梨大学肝疾患センターとでC型肝炎ウイルスへの抗ウイルス治療終了者を対象に定期通院へのモチベーション維持や定期受診未受診者の再受診勧奨を含めた保健指導システムを構築するため、ファイブロスキャンを用いた肝硬度と脂肪化の検査を無料で受けることのできるC型肝炎治療終了者サポート事業を平成29年10月から開始しており、同事業の解析を行なった。

B. 研究方法

1. 甲府市における肝疾患への取組み

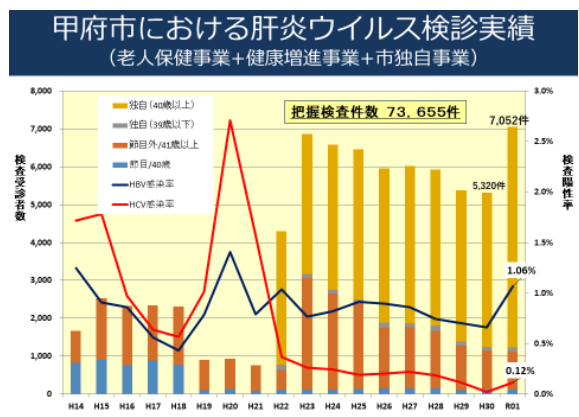
山梨県甲府市（人口187913人）では肝炎ウイルス検査を全市町村での健康増進事業に加えて、平成22年度から人間ドックを受

ける30歳以上の国民健康保険加入者に対して独自事業として行っている。また令和元年度からは独自事業対象者を後期高齢者へも拡大した。独自事業申込者へは過去の受検の有無を自己申告で確認している。また腹部超音波検査での肝がん検診を平成14年から19年までは県の補助事業、平成20年度からは市独自事業として自己負担1000円で行っている。

2. C型肝炎治療終了者サポート事業の解析

平成21年から開始されたC型肝炎患者ウイルス肝炎治療費助成受給者を対象に、ファイブロスキャンを用いた肝硬度と脂肪化の測定を無料で行う「C型肝炎治療終了者サポート事業」を平成27年10月に開始し、山梨大学医学部附属病院でファイブロスキャン検査を受託している。対象者に案内を郵送し、希望者は申込書と同意書を返送し、

人（0.42％）、独自事業で受検者 5923 人陽性者 4 人（0.07％）であった。平成 14 年度に開始した老人保健事業でのウイルス検査導入以降 73655 件の肝炎ウイルス検査結果を把握している。

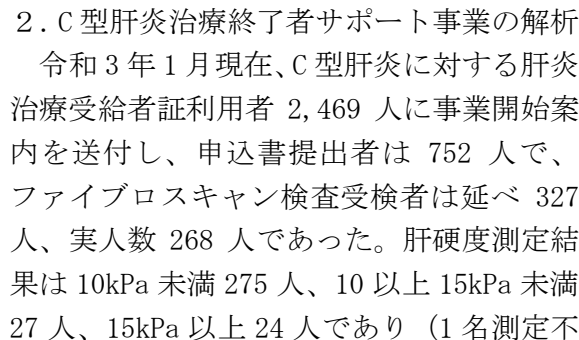


甲府市における肝がん検診実績

(市独自事業 ※H19までは県の補助事業)

年度	受診人数 (人)	要精検受診率 (%)	精検受診率 (%)
H14	1,300	5.2%	3.1%
H15	2,300	9.1%	7.1%
H16	2,600	8.8%	6.1%
H17	3,400	9.2%	6.1%
H18	4,100	9.6%	7.1%
H19	4,100	8.0%	5.1%
H20	4,800	7.4%	6.1%
H21	5,500	12.3%	10.8%
H22	8,500	7.1%	5.1%
H23	9,800	8.1%	6.1%
H24	10,300	9.1%	6.1%
H25	10,800	7.4%	5.6%
H26	11,800	9.1%	7.6%
H27	12,300	8.5%	6.1%
H28	12,300	8.5%	6.1%
H29	12,300	9.6%	8.1%
H30	12,403	8.8%	7.1%
R1	13,952	3.9%	2.7%

要精検受診率 75.1%
肝がん 累計25人
他のがん 80人



3—

3—

可)、10kPa 以上が 15.7%、15kPa 以上が 7.4%とウイルス排除後でも高肝硬度症例が認められた。脂肪については CAP 値 200dB/m 未満 110 人、200 以上 250dB/m 未満 131 人、250 以上 300dB/m 未満 54 人、300dB/m 以上 31 人であり、26.1%で中等度の 9.5%で高度の脂肪沈着を認めた。

実人数 268 人中 36 人 (13.4%) はすでに定期受診から脱落していた。ファイブロスキャン検査時に肝疾患コーディネーターから定期受診の必要性の指導を受けた症例では定期通院への意欲を向上させ、脱落例でも再通院に繋がっている。

C型肝炎治療終了者サポート事業（事業実績）			
●事業開始	平成29年10月2日（～令和3年度まで）		
●肝炎治療受給者証利用者	2,469名に事業開始案内送付		
●事業に申込み・同意書提出者	752名 令和3年1月19日現在		
●検査受診者	268名（男性152名、女性116名）令和2年12月末現在		
・平均年齢	67.1歳		
・定期検診未受診者の受診勧奨	36名		
肝硬度測定 (kPa)		肝脂肪蓄積 (dB/m)	
10未満	275人	200未満	110人
10以上15未満	27人	200以上250未満	131人
15以上	24人	250以上300未満	54人
		300以上	31人
平均	7.1	平均	220.3
最高値	50.5	最高値	376

22

D. 考察

甲府市でのウイルス肝炎検査事業を解析して、市独自事業で健康増進事業よりも多数が受検していることが確認された。この独自事業の結果は県全体での解析へは十分に反映されておらず、全県さらには全国の自治体によるウイルス肝炎検診の全体像を把握する際には統合した解析を行なう必要がある。

C 型肝炎ではウイルス排除例が増加しており、それに伴い定期通院から脱落する症例も増加する可能性がある。C 型肝炎治療終了者サポート事業では、ファイブロスキャン検査を無料で受けられることにより、定期通院のモチベーションを上げ、またコーディネーターが通院継続指導を行うことにより脱落者を減らし、ウイルス排除後にも肝硬変、肝がんへと進行する症例を囲い込

めることにつながると期待される

E. 結論

甲府市では健康増進事業を上回る肝炎ウイルス検査を独自事業で行っていた。県全体での解析に統合すべきである。

C 型肝炎治療終了者サポート事業はウイルス消失後の通院継続と肝がん高リスク群の囲い込みに効果が期待される。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

なし

<実務活動>

山梨県の肝疾患診療連携拠点病院である山梨大学医学部附属病院肝疾患センター長として、全国の肝疾患診療連携拠点病院連絡協議会、山梨県肝炎対策協議会、山梨県地域両立支援推進チーム等で肝炎撲滅のために活動。

G. 研究発表

1. 発表論文

なし

2. 学会発表

* 山本知恵、渡邊拓也、渡辺亜矢子、遠藤雄子、三科進吾、河西文子、浅山光一、古屋好美、中山康弘、井上泰輔、榎本信幸。

甲府市における肝がん・肝炎対策について～一般市から中核市の取り組み～
肝臓61巻Suppl.1 Page A259, 2020

* 井上泰輔、中山康弘、榎本信幸。

本県のC型肝炎撲滅への地域別対策. 肝臓61巻Suppl.3 Page A782, 2020

3. その他

啓発資料

* サポート事業案内の資料

山梨県からのお知らせ（C型肝炎治療終了者サポート事業の御案内）

医療費助成を用いてC型肝炎治療を修了した方へ送付。

- * 受診券（やまなし健康パスポート）
サポート事業参加同意者へ送付。

啓発活動

- * 雨宮 令子、山本 知恵、渡邊 拓也、
渡辺 亜矢子、遠藤 雄子、三科 進吾、
河西 文子、浅山 光一、古屋 好美、
中山 康弘、井上泰輔、榎本 信幸。
甲府市における肝がん・肝炎対策について～一般市から中核市の取り組み～
令和2年度肝炎対策地域ブロック戦略
合同会議 関東甲信越支部
令和2年10月 WEB開催
- * 井上泰輔 司会 令和2年度 肝疾患拠点
病院 医療従事者研修会
令和3年3月11日 主催：山梨大学医学
部附属病院肝疾患センター

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし